

「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学農学部1年 阪田 瑛里子

①学習成果

本プログラムに参加する前の韓国語学習歴は、1年間初修外国語で朝鮮語を履修しつつ、独学で教科書には記載されていなかった表現を少し学んだ程度であった。特に私の場合、とっさに使える韓国語の表現が乏しかったため、スピーキング、ライティングに関して全く自信がなかった。2月に行われた事前語学学習では、TAの方から新しい語彙、表現を学ぶ上で大切になる話を沢山教えていただいたため、渡韓までの韓国語学習も意欲的に進めることができた。留学中、平日は延世大学校の語学堂にて4時間の韓国語の授業を韓国語で受けた。語学堂のクラスは登校初日のプレイスメントテストで決定したのだが、自分が入ったクラスは正直自分の実力よりもレベル少し高かったように感じた。しかし、周りのクラスメイトのレベルが高かったからこそ、授業外でも毎日勉強を頑張ろうと思うことができたため、結果的にはこのクラスで良かったように感じた。授業で扱った内容のほとんどは自分の知らなかった表現で、勉強のやり甲斐が大いにあった。新しい表現を学ぶごとに自分の表現の幅が広がるのを留学期間中に感じることもできたため、韓国語学習の楽しさや語学学習を通した多文化理解の面白さに気づくことができた。私の場合、2回生以降は外国語の履修が必要ないのだが、今回の留学の経験をこの先にも活かしていきたいと感じたため、引き続き朝鮮語の授業を履修しようと考えている。

②海外での経験

韓国はほかの国と比べて日本と文化や生活様式がかなり似ていたり、お店を訪れた際も日本語で対応していただけることがあったりしたため、大きなカルチャーショックを受けたり生活の上で苦労することは比較的少なかったように感じた。韓国語の運用能力を少しでも向上させるため、現地の人に話しかける際、まずは知っている韓国語を用いて積極的に尋ねるようにした。こうすることで、後で「あの時、どう言えば伝わただろうか」と振り返り、新しい表現を学ぶきっかけになった。

③プログラム内容

- ・事前語学学習 @京都大学 (2/6 - 2/20 のうち10日間、各1時間)

レベル別に4つのグループに分かれて行われた。TAの方のお話は自分が韓国語の学習を進めていくうえでとても有意義なものであった。

- ・共同セミナー準備 @京都大学 (1/23に1時間、2/20に2時間)

このセミナーでは、日本にいる私たちが実際に経験したことや日本での一般的な見方からどのような論点が出てくるのか、という点を中心に話を展開する必要があったのだが、事前リハーサルの段階ではプレゼン内容に韓国の事情についてただ説明するような内容が多く含まれていたため、その後の修正が大変であった。今後、同プログラムに参加予定の方々には、日本の学生から見た韓国はどうであるか、そしてそこからどのようなディスカッションポイントが生まれるのか、を発表内容の軸にして準備するように気を付けていただきたい。

- ・韓国語学習 @韓国・延世大学校語学堂 (3/6 - 3/21 の平日9-13時)

私のクラスは14人中10人が日本人、そのほか香港、中国、カナダ、オランダから1人ずつであった。クラスによって雰囲気は違うと思うが、このクラスは授業間の休み時間に、たとえ日本人同士であっても積極的に韓国語でコミュニケーションをとっており、実際に私も韓国語で話していた。先生方の教え方はとても分かりやすく、質問もしやすい雰囲気であった。

・文化体験 @韓国・延世大学校語学堂(全3回)

ハングルカリグラフィー、ナジョンチルギ作り、タッカルビ作り体験があった。今までにない体験ができ、非常に興味深かった。

・共同セミナー @韓国・延世大学校 UIC(2時間)

各グループ10分程度の発表であるため、論点を絞って発表しなければならなかった。直前に完成させたため、もう少し余裕を持たせて準備をすべきであったと感じた。また、延世大の学生は皆さん英語が上手であるため、ディスカッションの時間は話が途切れないようにすることで精いっぱいであったが、こちらが用意した質問についてのみならず、そこから得られたさらなるトピックに関して詳細を知ることができ、韓国の文化に関して理解を深める有意義な時間となった。

・UIC 講義聴講・京大生のための特別講義 @韓国・延世大学校 UIC(各4時間)

During my auditing of UIC lectures, I attended Professor Helen Lee's class, *Culture, Media, and the Politics of Beauty*. The lecture focused on the connection between fandoms that support the globally booming K-pop culture and political protest movements in South Korea and the United States, as well as the characteristics of each. As part of the class preparation, we read several articles in advance. UIC students then gave presentations on the topic, each introducing their own unique perspectives, followed by a class-wide discussion. This format was a new experience for me, and I was quite overwhelmed by how actively UIC students engaged in the discussion. There was also a small-group discussion session. Since I struggled to find the right timing to speak, UIC students kindly encouraged me to express my opinion. They also nodded attentively as I spoke, making me feel supported, which I deeply appreciated.

Additionally, I attended a special lecture for Kyoto University students by Professor Howard Kahm on Japan-Korea relations. Up until now, the history classes I had taken were taught from a Japanese perspective. However, this lecture provided an opportunity to learn about history from a Korean perspective and to examine bilateral issues between Japan and South Korea. I had the chance to ask Professor Kahm several questions, and he answered each one sincerely, which helped deepen my understanding. Through this experience, I realized the importance of studying history thoroughly in order to discern the truthfulness of information.

④進路への影響について

今回のプログラムでは言語学習を通じた異国文化理解の面白さ、そして国際的なコミュニケーションを通じた他者理解の重要性を、身を以て感じることができた。将来、韓国に直接関連するような道に進むことを考えているわけではないが、今回の経験を通して、次はさらに日本とは異なる文化を持つ国に留学したいと強く思うようになった。もともと英語圏の国への留学に興味があったため、何らかの形で実現したいと考えている。